

之趣竹庵味卜春松平入方迄書付遣し申候、被成御存知候通、拙子儀九十二及申候故、恵心院中興成立之様子段々能奉存候、今度恵心院御訴訟被申上候趣少も相違無御座御事ニ候、猶以可然様ニ乍憚奉頼存候、恐惶謹言

正月三日

上林三休

□(花押)

桜井宗伝様

同 宗恩様人々御中

(8) 恵心院文書26

尚々委ハ三十郎(野間) 口上ニ可奉得御意候間、弥外間可然様ニ奉頼存候

態一筆致啓上候

一先日御願にて早速恵心院御裏判被致頂戴、差上せ被申ニ付、彼良雄殊之外驚、罷下候而も無筋返答なと申上候者流罪ニも可被仰付哉と存候故歟、今月九日ニ峯順方へ彼良雄参候而申候者、恵心院裏判被致頂戴被差登候、尤罷下返答をも可申上候儀ニ御座候得共、菟角御先祖御取立之寺ニ紛無之儀ニ御座候間、唯今上林へ薬師堂差上申候、其上去年取立申候新寺をもこほち本之田地ニ可仕候間、寺社御奉行衆へ峯順方より其段御断申上、良雄罷下候儀御免被成被下候様ニと、如此上ケ状書、今月十五日持参任訴訟申候故、只今峯順方より寺社御奉行衆其段以飛札申上候、右上ケ状仕候上ハ、御影にて公事之儀者恵心院勝手ニ罷成候、扱々忝仕合御芳恩難忘奉存候、左様ニ御座

候得者、薬師堂ニ伝り有之候茶蘭少御座候、并薬師堂仏前之諸道具

薬師堂ニ付申候分者尤相渡可申候へ共、如此之徒者ニ御座候間、堂本尊さへ渡候得ハ意儀無之様ニ存候間、又々候わかま、申候へハ、

重而恵心院御訴訟ニ罷下候儀も如何ニ御座候間、今度寺社奉行衆御書付ケ上林当所ニ被成、此度恵心院拜領仕罷登候様ニ偏ニ奉頼存候

一去年良雄取建申候新寺、此度良雄こほち取可申由申候、彼新寺ハ薬師堂伝り之茶蘭悉堀取新屋敷ニ拵、昔より薬師堂ニ有之竹木を伐採、堂廻りも堀荒シ、筑出ニ仕、取立申新寺之儀ニ御座候間、右之新寺も恵心院へ被仰付可被下事

一内々恵心院御継目之御礼ニ罷下度被存候内、指当り良雄と出入有之ニ付、御目見江之望も申上兼候へ共、ケ様ニ相濟候上ハ、其元ニ被致逗留候而成共、何とそ御才覚被為成、此度御継目之御礼も申上被罷登候様、奉頼存候、委曲野間三十郎ニ口上ニ申入候間、可奉尊得意候、恐惶謹言

正月十八日

春松(花押)

平入(花押)

味卜(花押)

竹庵(花押)

桜井宗伝老様

同 宗恩老様人々御中

(9) 恵心院文書27

恵心院より飛脚被差登候間、乍幸便一筆致啓上候

一去月七日、同十八日ニ以連状申上候処ニ、相届御披見ニ付、二月九

日之御目付之御連状忝拜見仕候

一先書ニ申上候通、寺社御奉行衆へ具ニ被仰達被下之旨、忝奉存候、就夫右京殿出雲殿被仰候者、今度良雄罷下、公事をも御嘸被成候者御書付をも可被下儀ニ候へ共、無其儀、良雄立除候上ハ寺社御奉行衆より之御書出シニ不及、峯順右之段々堅申渡、可然旨御答被成候へ共、恵心院被申候ハ、爰元へ罷登峯順申付ル分にてハ、良雄如何様之儀可申をも不存候間、御両所様より急度被仰付被下候様ニト、御訴訟被申ニ付、又其段何も被仰達被下之由、重々忝奉存候、弥万事奉頼存候

一今度峯順方より良雄薬師堂上ケ状之写、其許へ進上申候刻、以書状申上候趣、右何も之連状と相違仕御不審ニ思召候旨、御尤ニ奉存候尤連状之通ニ峯順方よりも申上ル仕合ニ御座候得者、御事多内へ御訴訟ニ恵心院下シ候儀も延引仕、一旦ハ此地にて良雄ニ可申付儀ニ御座候得共、先書ニも如申上候、上林先祖之者共取立申寺之儀ニ御座候へハ、于今祈祷以下ヲも頼無如在寺ニ御座候、峯順儀は御代官所之義ニ御座候得ハ、下々風聞も如何と存、当地にてハ申分も聞不申、水野石見殿、五味備前殿へ申上、御両人之御前にて裁許申候得者、寺社方之之義ニ御座候間、罷下、右京殿出雲殿へ御訴訟申可然旨被 仰渡ニ付、恵心院被罷下候、就夫恵心院隣寺良雄トハ書申事ニ御座候、左様ニ御心得被成可被下候

一先書ニも如申上候薬師堂ニ伝り申候茶藪四ヶ所、并ニ今度良雄取立申候新寺無相違恵心院支配ニ罷成候様ニ、上林峯順方迄寺社御奉行衆より急度御書付被下候様ニ弥偏ニ奉頼存候

一最前も如申上候恵心院儀、何とそ御肝煎被成、此度御目見へをも被

致被罷登候様ニ、万事奉頼存候、委細者恵心院方迄申入候間、可被申上候、恐惶謹言

上林平入 (花押)
上林春松 (花押)
上林味卜 (花押)
上林竹庵 (花押)

二月廿八日
桜井宗伝老様
同 宗恩老様

[10] 恵心院文書 6

芳墨拜見申候、先以当御地相替儀無之、公方様弥御機嫌能被為成御座候間、可易御心候、然者恵心院下坊之儀、事相濟於貴老満悦之旨得其意存候、恵心院別而被致大慶候由、尤存候、猶期後音之時候間、不能詳候、恐惶謹言

安右京進

重長 (花押)

五月十二日
竹庵老御報

[11] 恵心院文書 5

家来甚左衛門所迄芳札令拜見候、然者貴院事今度首尾能継目之御目見相濟、難有被存之旨、尤ニ令存候、将又下坊薬師堂之儀、爰元にて永井信濃、五味備州と遂相談候通、上林峯順被申渡候ニ付、欠落仕候坊跡、貴院請取相濟申候由、令得其意候、尚期後音之節候、恐惶謹言

安藤右京進

五月十二日
宇治惠心院

重長（花押）

慶不過候、何も御満足御連状之趣寺社奉行衆江委申達候、恐惶謹言

〔12〕惠心院文書42

惠心院より飛脚御越ニ付、御連状委拜見申候、惠心院今度御訴訟悉相叶、其上御前首尾能御目見相濟、残所も無之、各別而御大慶之段、得其意存候

一惠心院下坊薬師堂良雄と出入ニ付、寺社奉行衆より良雄方江召状裏判參候処、罷下り申分も無之ニ付、彼良雄宇治ヲ払、薬師堂ハ不及申ニ、仏具諸道具并田地取上ケ、惠心院江相渡り候様ニ上林峯順江御申渡候へと、永井信濃守殿御上之節寺社奉行衆より五ヶ條之書付御越、其段信濃殿委御申渡シ、其後五味備前殿上京之節も右之段御申渡シ、峯順老良雄方江五ヶ條之趣急度被申渡候段、得其意存候、就其良雄宇治を御払、薬師堂仏具諸道具四ヶ所之田地まで惠心院へ相渡り候段承届ケ候

一右四ヶ所之田地之内、二ヶ所ハ薬師堂伝り之田地ニ而も無之候へと、良雄同時ニ指上申ニ付、惠心院へ相渡候由峯順御申越候、次ニ良雄建申候新寺之義、良雄宇治払れ候上ハ新寺こほちとり候ても寺建可申所も無之由にて、新寺共ニ良雄指上惠心院江相渡り候由、寔以良雄無仕合無分別とは乍申、笑止成事ニ候

一惠心院御訴訟、今度思外首尾よく相濟、各御先祖御取立之寺之義御座候へハ、重々御満足之由、具ニ御申越得其意存候、今度之義惠心院我等へ打懸御頼、其上何もより別而御申越之事ニ候故、随分精を出シ肝煎申事、惠心院御存之通ニ候、存之外首尾よく相調我等共大

五月十六日

桜井宗恩

正勝（花押）

桜井宗伝

正□（花押）

上林竹庵様

上林味卜様

上林三休様

上林平入様

上林春松様

〔13〕惠心院文書118

一字治惠心院者代々公方様江御安全之御祈禱之御札并御年頭献上仕候由緒ハ、春日様ニお妻と申女房達御座候、此お妻ハ先惠心院姪ニ而御座候、此由緒を以、春日様御念頃ニ被成御意、御上洛之時分ハ春日様へ毎度御礼ニ罷出候ニ付、春日様被成御意候者、公方様御安全之御祈禱精を入執行申、毎年正月ニハ御札献上仕候様ニと被仰付「」故、御意之通ニ相動来候、則当公方様（家綱）御誕生被為成候御年より、大猷院様当公方様向江献上仕候、中頃桜井宗伝老へ被仰付、おもてむきの御帳ニ付候様ニと被成御意、松平伊豆守殿御披露ニ而差上ケ申候、唯今ハ桜井宗忍老へ頼入、土井能登守殿松平因幡守殿御披露ニ而、毎歳正月御安全之御札献上仕候

一春日様御在世之時分ハ毎年御初尾拜領仕候、春日様御逝去以後中絶

仕候事

一当住恵心院ハ先年継目之御礼ニ罷下、首尾能御目見仕、御暇被下、其後度々御目見仕候御事

一御札献上仕候儀五十年ばかりニ罷成候御事

之段過重存事候、故障之儀付覃遠慮回章及遲滞候、恐惶謹言

松平備前守

二月十日

隆綱(花押)

恵心院復酬

〔14〕 恵心院文書66

来札令披閱候、如承意新陽之嘉儀不可有際限候、当御地安泰之事候、隨而扇子一箱被懸芳意御心添忝存候、御自分弥無異儀御超年之由珍重之至候、猶期後慶之時候、恐惶謹言

松平備前守

正月十九日

隆綱(花押)

恵心院回章

謹言

御札令拜見候、如仰改陽之佳慶遂日不可有尽期候、先以当御地御安全之御事恐悅御同前存候、如御紙面旧冬者首尾能御目見相濟、其上早速被遣御暇、重疊難有思召候旨、得其意存候、将又為年始之御祝儀扇子五本入一筥被贈下之、寔遠路御芳情忝存候、猶期永日可申述候、恐惶

松平備前守

二月五日

隆綱(花押)

恵心院様御報

〔15〕 恵心院文書67

御札令拜見候、如仰改春之御慶、何方も御同意重疊日出度申納候、就夫為御祝詞扇子五本入一箱被贈下、遠路御心入之段忝存候、其表無別条貴僧御無為御座候由珍重存候、将又拙者儀無事有之候間、可御心安候、如被仰聞其後ハ不申通候、尚期後音之時候、恐惶謹言

松平備前守

正月廿四日

隆綱(花押)

恵心院様御報

〔16〕 恵心院文書68

為新陽之佳祥、先頃預芳翰、殊更扇子一筥五本被懸御意、毎歲御心入

申候間、いつもなから被入御念可給候、先達而西村良以ニ茶之義伝言申入候、なを重而申入へく候、恐惶謹言

松平備前守

〔18〕 恵心院文書70

尚々恵心院今度首尾御目見へ被申、令満足候かしく
恵心院被罷登候間、申達候、其余相替義無之、貴老無事之由珍重存候、仍恵心院事去ル廿八日首尾残所無之御目見江被致候、委細之義は恵心院物語可被申候、安右京殿もことのほか被入精候、今度之恵心院仕合とくかの筆紙ニ可申様も無之候、右御文近日例年之壺ともつかハし可申候間、いつもなから被入御念可給候、先達而西村良以ニ茶之義伝言申入候、なを重而申入へく候、恐惶謹言

三月晦日
竹庵老まいる

□(花押)

(19) 恵心院文書176

夫当寺は恵心僧都源信の開基説法利生の勝地衆生済度の霊場也、抑僧都源信者卜部正親の息和州葛木郡の人也、幼時ニ夢の告有之、叡山にのほり、慈恵僧都正につかへ奉りて出家し修学したまふ、天性聡明なる事天聴に達し、十五歳の時、村上天皇慈恵僧正に勅定ありて天曆十年六月廿一日清涼殿に至て御八講の講師をとけられぬ、帝叡感のあまり直に僧都に任せられ、それより恵心僧都といへり、愈教法薫余し、諸経論等にわたりて顯密の奥旨を究たまふ、肆に学業のともから叡岳にこそり道德の誉唐におよほせり、又ある夜夢すから伝教大師合掌して告曰、我山教法今汝に附属す、加て観世音微笑して金蓮花をさつけ、毘沙門天来現し、蓋を撃たまひぬ、かねてハ又入滅の期をしりたまひ、天童翼従し菩薩出現す、不思議の奇瑞をあらハしたまふ事かきりなし便定印をむすひ、端坐して遷化す、に時天楽空にひき奇香四郷に散す、山中の草木皆悉西になひけり、伝聞趙宋皇帝源信の道誉を聞、塔廟を建影像を置くなり、誠是徳風異朝まで輪美せらるゝ事希有の権化なるもの歟、されは当寺無双の霊地たりといへとも星霜うつりかハリ、年月はるかにへたゝりて荒廢の地となりし所密乗の師祖靈跡の埋れんことを悲て、中興開基して仏閣豊をならへ、寺門軒をかさねて造畢し給へり、今沙門某堂宇の修営を企んとすれとも微力にして功を成かたし、偏に諸方檀越の扶助にあらずんは争素懐をとけん、廉幾は貴賤男女信力をはけまして奉加の紙面にのせられ都鄙の群俗善縁におもむき

菩提の施入にすゝみたまへ、然則報謝の功德なんそむなしからむ、本尊大悲の擁護にあつかりて現当二世の願望一時に成就せしめむ、仍而勸進となふる所如斯

宇治

寛文十三年癸丑仲春吉祥日

恵心院良攸判

這一軸依所望馳遅ノ毛以結縁欲得涅槃ノ種智者也

于時延宝四曆仲夏初七

権大納言藤原雅房書之

(20) 恵心院文書177

恵心院画像阿弥陀如来由来記

夫山城国宇治里恵心院者往昔恵心僧都の説法の遺場なり、或時僧都弥陀の本願によりて十地満足速に成就する事委しく演説したまへハ、俄に宇治河の河上より金色の光りさし、西方より紫雲たなひき説法の場異香薫し阿弥陀如来の三尊廿五の菩薩来迎ありしゆへに、僧都感涙をなかしありかたき事におほしめし其軀相を絵にうつしたまふ弥陀是なり、又或時説法のうへにて和歌を詠したまふ

法のみちしる人あらハ渡するへし 極楽へゆく船のたよりに

と詠したまふ、聴衆の人々此和歌を聞てなを信仰のおもひをなし退出す、爰に年のころ八句におよへる老莊一人法席にのこりて悲啼号泣す、僧都そのゆへを尋ねたまへハ老莊のいはく、唯今の御歌法の道しる人あらハ渡すへしと詠したまふ、われらこときの愚昧のもの成仏なりかたかるへしとおもひ不覚のなみた袖をひたせりとこたふ、此詠歌を法の道しるもしらぬも渡すへしと詠したまわハ、われらこときも誠にたのもしく候なりとありけれハ僧都もつともと感心し給ふ、僧都も不思

議なること、おもひて老莊のかへりたまふに人を添てゆくかたをミせられけれハ、道程一町はかりゆくとみへてたちまちにミうしなひたり、すなわち此絵像の阿弥陀如来老莊に化したまふといひつたへ侍りける

右交野三位時香卿染毫也

上人良純写之

〔21〕 恵心院文書61

上林峯順御代官所、山城之内入組近在其表寺領、当辰年取ケ究り次第書付并去丑寅卯三年之取付をも書添、当十月廿日前相認、我等方江可被差上候、若勝手患敷候ハ、封之俣此方江相届候様ニ右御代官迄可被指越候、此段御用ニ付御老中江得御内意如此候、以上

六月六日(延宝四年)

前田安芸守印

恵心院

藏之坊

〔22〕 恵心院文書52

猶以取ケ付之儀、此以後相触申間敷候間、極次第御書付毎年御越可被成候、以上

五畿内近江丹波播磨御藏入近在入組給所方取ケ付、今年より毎歳十月廿日前、書付被差上候様ニ、此度從御老中御証文被下置候、就夫其表寺領城州久世郡小倉村高何程高二当巳年取ケ何程、極次第早々書付我等共方江可被差上候、若勝手患敷候ハ、右入組之御代官上林峯順方迄封之俣被届之、此方へ相達候様に尤ニ候、以上

五月廿八日(延宝五年)

能勢日向守(印)

前田安芸守(印)

恵心院

藏之坊

〔23〕 恵心院文書89

(表紙)

〔御朱印恵心院兼帯

山城国久世郡小倉村之内藏坊知行水帳〕

小倉村之内藏坊知行檢地帳

西浦

一上田 式拾貳間 三間五尺四寸 二畝貳拾七步 弥兵衛

分米四斗六合

同所

一中田 三拾間 七間 七畝步 半右衛門

分米八斗四升

橋のめ

一中田 五拾八間 四間壹尺八寸 八畝九步 加右衛門

分米九斗九升六合

西浦

一上畑 拾間 五間 壹畝貳拾壹步 孫太夫

分米貳斗貳升壹合

同所

一上々田 式拾八間 拾壹間四尺式寸 壹反式拾七步 半右衛門
分米壹石六斗三升五合

同所

一上々田 三拾間 拾間 壹反步

勤七

あつき田 分米壹石五斗

同所

一下田 式拾三間 拾間三尺五寸 八畝三步

吉右衛門

分米八斗壹升

同所

一上々田 三十五間 八間半 九畝式拾七步

小右衛門

分米壹石四斗八升五合

同所

一上々田 八間 七間半 式畝步

四郎右衛門

分米三斗

同所

一上々田 拾壹間壹尺五寸 四間 壹畝拾五步

庄右衛門

分米式斗式升五合

同所

一上々田 拾九間 六間壹尺 三畝式拾七步

次郎右衛門

分米五斗八升五合

同所

一上々畑 拾間 三間 壹畝步

吉右衛門

分米壹斗四升

同所

一屋敷 拾四間 三間 壹畝拾式步 四郎兵衛
分米式斗壹升

同所

一中藪 拾間四尺式寸 五間 壹畝式拾四步

善三郎

分米式斗七升

同所

一上々畑 拾六間 五間壹尺五寸 式畝式拾四步

善三郎

分米三斗九升式合

同所

一屋敷 拾三間 五間壹尺八寸 式畝九步

久左衛門

分米三斗四升五合

同所

一上々畑 拾間四尺式寸 五間四尺八寸 式畝三步

同人

分米式斗九升四合

同所

一上々田 式拾六間 拾壹間四尺八寸 壹反六步

次郎左衛門

分米壹石五斗三升

同所

一上々田 式拾五間 四間三尺五寸 三畝式拾四步

惣十郎

分米五斗七升

同所

一上々田 式拾六間半 四間半 四畝步

同人

分米六斗

同所

一上田 式拾六間半 六間壹尺式寸 五畝拾五步

庄右衛門

分米七斗七升

はかのけ

一上田 四拾九間半 五間半 九畝三歩

善兵衛

分米壹石貳斗七升四合

わたらい

一下田 貳拾間 拾六間 壹反貳拾壹歩

勘六

分米壹石七升

はかのけ

一上田 五十貳間半 六間四尺貳寸 壹反壹畝貳拾壹歩

佐右衛門

分米壹石六斗三升八合

同所

一上々田 五十七間 四間半 八畝拾八歩

与右衛門

分米壹石貳斗九升

同所

一上々田 五拾三間半 五間壹尺八寸 九畝拾五歩

半右衛門

分米壹石四斗貳升五合

御かくら田

一上々田 三拾四間 八間壹尺八寸 九畝拾貳歩

四郎右衛門

分米壹石四斗壹升

口畑

一中藪 貳拾五間 拾貳間壹尺貳寸 壹反六歩

善兵衛

分米壹石五斗三升

一屋敷 九間四尺貳寸 六間半 貳畝三歩

伝右衛門

分米三斗壹升五合

おいの木

一中藪 拾間半 六間三尺四寸 貳畝九歩 半右衛門

分米三斗四升五合

同所

一上々田 三拾壹間半 五間三尺六寸 五畝貳拾七歩 小右衛門

分米八斗八升五合

同所

一上々田 拾七間半 五間貳尺四寸 三畝六歩 半右衛門

分米四斗八升

おいの木

一上々畑 四間 三間半 拾五歩 半右衛門

分米七升

一屋敷 五間 三間三尺六寸 拾八歩 惣十郎

分米九升

おいの木

一上々畑 八間半 四間半 壹畝九歩 同人

分米壹斗八升貳合

右之寄

上々田 九反貳畝貳拾四歩 此分米拾三石九斗貳升 但壹石五斗代

上田 貳反九畝六歩 此分米四石八升八合 但壹石四斗代

中田 壹反五畝九歩 此分米壹石八斗三升六合 但壹石貳斗代

下田 壹反八畝貳拾四歩 此分米壹石八斗八升 但壹石代

中藪 壹反四畝九歩 此分米貳石壹斗四升五合 但壹石五斗代

上々畑 七畝貳拾壹歩 此分米壹石七升八合 但壹石四斗代

上畑 壹畝貳拾壹步

此分米貳斗貳升壹合

但壹石三斗代

屋敷 六畝拾貳步

此分米九斗六升

但壹石五斗代

高三石八斗七升貳合 無地荒高

反合 壹町八反六畝六步

分米合 三拾石

延宝六年戊午正月廿六日

石川主殿頭内

井口惣兵衛判

同断 松井久兵衛判

同断 坂口源左衛門判

墨付紙数八枚

〔24〕 恵心院文書91

合銀七貫目也

右之金子山内無抛入用之儀出来候ニ付拝借申処実正也、然ル上ハ利分之処、極月中其御寺より公儀地面在之、右年貢金ニ山内より差出可申、万一臨時御入用之節ハ上林様へ向ケ御申被下候得ハ、何時ニ而茂山内より御返済可申上、右預り一札如件

貞享元年子極月日

金色院一山 惣代賢弘(印)(花押)

福泉坊 久慶(印)(花押)

恵心院御役者中

山城国宇治之内白川

無本寺

白山

天台宗 别所寺

金色院

一往昔四条院御宇仁治元年庚子、今年迄四百五拾三年以前ニ而証朝上人□□開基也、此山之形相加州白山ニ令等同故ニ、以彼山ノ靈名移此山也、肆ニ本社白山権現也、此山ノ麓ニ三ツノ道有、加賀道、能登道、越中道ト云、社ノ下ニ流水有リ、干地か池の嶋ニ弁財天有リ、其外天照太神宮八幡宮の御社、文殊堂、鐘堂、惣門、闕伽井有リ、山ハ東西百間、南北式百間はかりの内ニ幽なる十六の坊舎常ニ香華灯明を備、御安全之御祈禱相勤申候、雖然供料無御座、此山内はかり古より御赦免被成下候之故、社頭伽藍等之修理以下、彼坊舎として相勤申者也

御代々御朱印三拾石拝領仕候

宇治恵心院兼帯ニ而御座候

社僧祿宜役毎朝香華灯明

御安全之御祈禱奉仕候

社僧祿宜役毎朝香華灯明

御安全之御祈禱奉仕候

社僧祿宜役毎朝香華灯明

元禄五千申六月吉日

蔵之坊

堅珠坊

福泉坊

池之坊

向之坊

西之坊

辻之坊

東之坊

〔25〕 恵心院文書94

北之坊

尾崎坊

等順坊

岡之坊

中之坊

南之坊

長円坊

南之坊

御奉行様

〔26〕 恵心院文書96

差上申一札之事

一山城国久世郡白川村白山金色院十六坊之儀ハ慶長年中蔵之坊住持より貴院江相譲り被申、其後数代一山御兼帯被下候ニ付、天下泰平国家安全之御祈祷法務貴寺ニ而御勤被下成、年々正月御札献上仕来候御事ニ付、右十六坊跡田畑山林御除地被為下置、且山林之儀ハ宮社寺坊修復手当田畑等ハ為御祈祷被下置候御儀之処、山内坊中心得違之儀仕、御上納相納不申、依之坊中社役人并ニ小作人等迄御出願ニ相成恐入候、双方御代官様江被召出対決被仰付候処、是迄借請候御祠堂金十六坊跡不残可相渡様被仰渡奉承知候、然ル処一山之儀茂修復等大破相成候ニ付、段々御願申上、借請候金子利分丈ケ相納元金は迄通置未、坊跡年貢不納之分不残相納候、猶此上山内坊中之者共心得違無之様、急度相慎可申様取斗可仕候、為後日依而如件

白川金色院惣代

宝永元年六月

池之坊 宗益(花押)

福泉坊 久慶(花押)

庄屋 賢弘(花押)

宇治恵心院御役者中

〔27〕 恵心院文書90

(表紙)

「山城国久世郡白川村白山金色院一山拾六坊 除地并ニ預ケ銀一条」

乍恐以書付奉申上候

山城国久世郡白川村白山金色院一山拾六坊之儀者

慶長年中蔵之坊住持寺より恵心院良泉法印相譲被申、其後当寺より数代一山兼任仕来候、依之古者真言宗ニ而候得共、近頃妻帯と相成来候、依之真言宗ニ而者如何と相談之上、天台宗と唱候也、往古久慶春益者当山良重法印刺刀之弟子ニ而御座候、寛永十年元禄六年延享二年御改之節書上、則其後延宝年中御除地時分淀御城主石川主殿頭様御奉行則御家来井口惣兵衛坂口源左衛門殿、右地方役人より操機有之候故、先住淀ニ逗留仕、白山地内除地被成下候様にと達而願上、尤常々坊中御祈祷相勤候事申立、願之通り願面差上候

願面之写

城州宇治朝日山

真言宗無本寺瀧泉寺

恵心院

公方様右大将様御代々様御安全之御祈祷卷数御扇子毎年正月奉献上来候御事